

中国を見て・感じて・探る…大連事務所発のレポート

大連のネットニュース「天健ネット」より

大連奇瑞乗用車生産 2011 年 6 月にラインオフ

3月16日、奇瑞汽車大連公司一期事業——30万台乗用車ラインオフ事業が大連保稅区大窯湾填海区で重要工場建設創業式を行った。主要工場の操業開始は奇瑞汽車大連公司30万台乗用車事業を全面的に推し進めることを表しており、2011年6月にはラインオフ(自動車の組み立てが完成)となる。

事業建設の全体計画に基づき、工場建設は2010年末に竣工され、2011年上半期に工芸設備が取り付けられ、2011年より大量生産を開始する。一期事業建設面積は30万㎡、固定資産投資は30億人民元にのぼる。事業完成後、年間30万台の中高級乗用車生産を誇る現代化乗用車生産工場となる。奇瑞汽車乗用車事業は2009年9月より正式に大連保稅区に進出する。

また、現在まですでに数十社が奇瑞大連工場下請け企業の大連保稅区における工場建設に投資すると決めており、アメリカのジョンソンコントロールズ(Johnson Controls)(世界ベスト500企業)、本鋼集団、奇瑞集団、アメリカタワー、オーストラリア富卓などの事業を含み、今年の投資総額は20億元に達し、これらのパーツ生産企業は近い将来次々と保稅区で工場建設を行う見込みだ。

大連市の念願であった自動車工場の誘致が成功し、その新工場が、来年6月に最初の生産車を出荷することが報道された。

大連に進出した奇瑞自動車は、1997年、安徽省と蕪湖市政府の出資によって設立された新しい企業で、外資に依存しない自動車づくりを目指している。100以上あるとされる中国自動車メーカーの中で、吉利自動車と並んで民族系資本の雄と称されている。奇瑞は、早くから低価格帯の乗用車で存在感を示し、2003年に売り出した800～1000CCの小型車QQがヒットしてから、外資系のメーカーを押しつけて、国内月間販売台数2位という快挙を達成したこともある。

中国自動車企業の輸出台数については、この数年間首位で、今では、ロシア、ウクライナ、イラン、エジプト、インドネシア、ウルグアイなど6カ国に工場を持っている。

また、モービル、シーメンスVDO、ボッシュ(BOSCH)などと部品・技術協力協定を締結しているほか、クライスラー、フィアットなど欧米の自動車メーカーとも提携関係がある。

この奇瑞の工場が立地するのは、大連港自動車埠頭の背後地で、この埠頭が完成したのは、4年前の2006年。大連港と中国船社のCOSCO、日本郵船が資本を出し合った会社によって運営されている。完成当時は、54haにも及ぶ背後地は、広大な空地のままだった。

奇瑞は、輸出台数が首位の中国メーカー。自動車専用埠頭がほぼ独占の状態であるメリットは大きい。輸出車の物流コスト削減にも大きく貢献できる。大連を選んだ理由の一つは、ここにあるだろう。

この奇瑞の進出によって、背後地が空地だったことも、威力を発揮した。自動車物流保税区も含めて、関連企業や提携関係の部品企業などが続々と名乗りを上げた。大連港としては、完成自動車だけでなく部品の出入りも考えられるため、コンテナの取り扱い量の増加も見込める。

奇瑞に続いて、第2、第3の自動車工場の進出があることを大連市は願っているだろう。確かに、ソフトの組み込みなど自動車IT分野には強みを持っており、大連市では、その人材確保も容易かもしれない。

今後は、中国の大きな問題となっている深刻なワーカー不足をどう克服するかが大きな課題となる。大連市は、内陸部に比べると物価も高く人件費も安くない地域である。良質な人材をどのようにして自動車業界に供給していけるかで、更なる誘致の可否が決まってくるだろう。